

参考資料3

【議事概要】令和7年度第4回札幌市せき柱側わん症検診検討会

名 称：令和7年度第4回札幌市せき柱側わん症検診検討会

日 時：2026年2月20日（金）午後6時30分開会

会 場：STV北2条ビル 6階 会議室B

出席者：全委員11名のうち、10名が出席（1名欠席、1名遅参）

その他：会議は非公開で進行され、会議資料および議事録等も非公開として取り扱う。

1 精度向上に係る取組事項と検討状況

これまでの検討会の議論（第1回～第3回）を踏まえ、精度向上に向けた最終的な4つのテーマ（重点項目）に沿った具体的な取組事項と今後のスケジュールについて、事務局より説明が行われた。直近では、医療機関リストの作成・周知、テスト検診の実施、学校向け通知の送付を予定している。

2 各テーマに関する具体的な取組と委員意見

(1) 前屈検査の徹底と検査手法の標準化（テーマ①）

【取組内容】

- 優先事項として、学校医への情報提供（前屈検査の依頼）の系統を統一し、令和8年度検診に向けて3月中までに周知を行う。
- 「札幌市版マニュアル」の作成、学校医向けの研修動画の作成、教職員向けの研修実施を段階的に進め、令和9年度からの本格導入を目指す。
- 学校医向けの依頼文書については、全国的な課題を示すため「コブ角10度超の側わん症は全体の2～3%」という事実を主な掲載内容として整理した。

【主な委員意見】

- 前屈テストは側わん症発見において最も重要な手法であり、徹底させるべきである。
- 現代の配慮から完全な脱衣は難しく、薄手の衣服（Tシャツ等）を着た状態での前屈テストで十分な精度が確保できる。統一した基準があれば保護者や児童生徒への説明もしやすい。
- 体型（脂肪が多い児童等）によって分かりづらいケースでは、看護師による補助やスクリーニングの注意を促す一文をマニュアルに加えるべきである。

(2) 機器検査の実施及び前屈検査の在り方の整理（テーマ②）

【取組内容】

- スコリオデバイス（デモ機）を活用したテスト検診（パイロット実証）を協力校にて実施し、手法の検証や課題抽出、所要時間の計測を行う。
- 未知数な部分が多いため、まずは試せるところから始め、徐々に拡大を検討しながら持続可能な実施手法を確立させる。

【主な委員意見】

- 機器（スコリオデバイスとスコリオマップ等）によってデータの出方や集計方法が異なるため、詳細な検証が必要である。
- 時間短縮のために児童生徒を一斉に並べて検査（ずらっと並べる手法）することは、プライバシーの配慮や羞恥心、周囲からの目の観点から抵抗感が強く避けるべきである。個別のブース等での実施が望ましい。
- 異常値が出た場合の再検査のルールや、テスト検診時の受診勧奨のあり方についても整理が必要である。

(3) 学校医と専門医の連携強化（テーマ③）

【取組内容】

- 整形外科医会と調整を行い、手挙げ制（募集型）による「参考医療機関リスト」を作成する。医療機関向けの通知には、精密検査から早期の必要な医療（装具治療や手術）に繋ぐ目的を明記する。
- 作成したリストはホームページに掲載するほか、保護者向けのリーフレット（資料5）にQRコード等で掲載し、受診勧奨時に活用する。

【主な委員意見】

- 学校医がスクリーニングした結果について、専門医から結果がフィードバックされる仕組みは、学校医のスキルアップや検診率の向上に直結するため非常に重要である。
- 「100人中2～5人は必ず引っかかる（発見率目標3～5%）」という具体的なインパクトのある指標を学校医が頭に置いて診察することが有効である。
- 身近な学校医から専門医を紹介してもらえる流れがあると、保護者も受診しやすい。

(4) 家庭におけるチェック機能の向上（テーマ④）

【取組内容】

- QRコードを掲載した保護者向けの受診勧奨パンフレット（リーフレット）を作成し、健診時に配布するだけでなく、2学期になっても未受診の家庭に対して再勧奨用としてリマインド配布する。
- 運動器検診問診票について、保護者がより正確にチェックしやすいよう記載方法のアップデートを次年度に検討する。

- 児童生徒や保護者がより感覚的に疾病の特徴や検診の意義を理解できるよう、啓発動画の作成（令和9年度検診向け）を検討する。

【主な委員意見】

- パンフレットにQRコードを載せて情報や医療機関リストに楽にアクセスできるようにする工夫は、非常に実用的で受診率向上に効果的である。リストには専門医や脊椎医の有無などの備考があるとさらによい。
- 問診票が「よく分からないから適当に丸をつける」といった状態を防ぐため、他の健診書類と提出時期を分ける工夫や、問診票の重要性を伝えるアプローチが必要である。
- 単に紙を配るだけでなく、学校教育（体育の保健分野など）の授業を通して児童生徒自身の意識を高め、子どもから家庭を巻き込んでいくアプローチが有効である。

3 その他

- 今回の検討内容を踏まえた学校宛ての通知（精密検査未受検者への勧奨や被患率の共有などに関するもの）は、3月頃に送付予定。
- 次回の検討会についても、審議の円滑な進行のため引き続き「非公開」とすることが全員一致で承認された。